



あすなるだより

2012年12月25日

発行 三重県立^{こども}小児心療センター あすなる学園 広報担当
〒514 0818 三重県津市城山1 12 3 TEL.059 234 8700 FAX. 059 234 9361
MAIL: asunaro@pref.mie.jp URL:http://www.pref.mie.lg.jp/ASUNARO/HP/

～あすなる学園 50周年記念特集～

あすなる学園の“いま”をご紹介します！

今回は、「外来デイケア・療育（発達支援）」と「病棟での療育（発達支援）活動」です。

外来デイケア・療育（発達支援）

あすなる学園には、お子さんが自宅から通いながら受けられる外来治療があるのをご存知ですか？
その1つが「デイケア」と「療育（発達支援）」です。保護者から離れ、保育士・
看護師・作業療法士・心理士などのスタッフとともに、お子さん同士で活動します。



■デイケアの紹介

小学生、中学生、高校生年代が対象です。

朝から夕方まで、給食も含めて約6時間。学校の流れに近いスケジュールで一日を過ごして生活リズムを整え、同年代の小集団の中で楽しい体験を増やししながら対人関係を学びます。適切な対処方法とその場で伝え、活動の中で丁寧に練習することで、家庭や学校で実践できる力を身に付けていきます。

一日のスケジュール

9時30分～15時30分（約6時間）

※午前又は午後のみ など短時間の通所もできます。

<午前> 始まりの会：その日の「スケジュール」と「約束」を確認し、活動への見通しをつけ、意識づけをします。

活動① 個別活動：パズル・伊勢型紙・ペーパークラフト・アイロンビーズ など 個別の課題をします。

活動② 集団活動：発表の練習・SST（ソーシャルスキルズトレーニング）・集団ゲーム など 集団で同じ活動をします。

*** 給食タイム 休憩タイム ***

<午後> 活動③ 運動：野球・サッカー・ドッチボールなどの球技・けいどろ・スポーツかるた など 体を動かす活動をします。

活動④ 集団作業：身だしなみチェックや歯磨きの仕方、アイロンかけなど身辺動作の練習・畑作業・調理など をします。

終わりの会：全員一日の“ふりかえり”をします。その後、個別の“ふりかえり”では、困っていることはないか、個人の目的にそって過ごすことができたか、家での過ごし方などを、担当職員と一緒に話し合います。

■療育（発達支援）の紹介

幼児、小学生が対象です。

「切り替えが苦手」、「初めての課題に抵抗感がある」、「一番じゃないと嫌」、「負けると怒る」、「お友達とうまくかかわれない」、「やりたくないことはしない」などなど…。このような子どもたちに、絵や見本をみせてわかりやすく、短く簡潔にルール説明をしたり、失敗したときの対処方法や気持ちの持ち方などを知らせます。活動に取り組みやすいように支援し、お友達と楽しくあそべた！やりかたがわかってボク（ワタシ）にもできた！また次もやってみよう！という体験をたくさん作り、自分で気づけることを増やします。

プログラム 年齢層や発達段階に応じて5人前後のグループで行います。

幼児グループ：年少児～年長児

1回 60分

- 絵描き歌
- サーキットトレーニング
- 手遊び
- おもちゃ作り
- 集団ゲーム（椅子取りゲーム
フルーツバスケットなど）
- 紙芝居

など

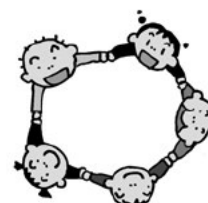
学童グループ：小学生

1回 60～90分

- 目的・約束・マナーの確認
- ウォーミングアップゲーム
（坊主めくり・トランプなど）
- 発表の練習・気持ち調べ
- SST（イライラした時・相談の仕方など）
- 集団ゲーム（風船バレー・転がしドッジなど）
- 一週間やってみよう（家庭での課題）

など

- ・保護者支援にも取り組んでいます。保護者の方からお子さんの養育上の相談を受け、適切な対応方法を助言し、園や学校の先生と連携して地域のサポートにつなげるなどの調整を図ります。また保護者同士での意見交換の場を設け、日々の悩みなど話し合う機会をつくれます。



こんな人たちが通っています！

- ・小学生 Aくん：いやな時は、先生のいうことを聞きたくない。でも、勝手に出て行ってはダメなんだ。「休憩していいですか？」って聞いてから… デイケアで練習中だよ。
- ・小学生 Bさん：腹が立つと叩いちゃう。そんなときは、イライラしたらその場を離れて深呼吸！
- ・中学生 C君：気になるクラスメートに、ボディタッチしたり話しかけたり、しつこくなってしまう。だから対人距離を学習中。パーソナルスペースっていうんだよ！
- ・中卒生 Dさん：定時制の高校に通っています。朝起きるのが苦手なので、デイケアに通って生活リズムをつけて学校へ行っています。
- ・中卒生 Eさん：中学を卒業して、次の進路を考え中。みんなと活動したり話すことに慣れたり、SSTでは困ったときに対応できる練習をしています。

保護者の方々の声

- ・以前と比べて、保育所でも友達の顔を意識しながら覗き込んだり、自分から手をつないだりするようになったことは、発達支援を受けたことの延長としてつながっていると感じます。
- ・小グループできめの細かいケアで、子どもに合わせて無理なく集団行動に溶け込むよう接してくれた。
- ・学校で困っていることを、SSTで実践してもらえた。学校の先生方と一緒に子どもに接していきたい。
- ・10回があっという間で、本人が毎回楽しみにしているようでした。私自身もそんな姿を見るのがとてもうれしかったです。

- ・ぐずったときの自分の対応に迷いがありましたが、指導していただいて今は気持ちがすっきりし、対応ができるようになりました。
- ・本人だけでなく、兄弟のこともアドバイスしてくださったこと。とても気持ちが楽になりました。
- ・発達支援の様子を、家族と話すことでコミュニケーションがふえた。
- ・保護者が話し方を変えることで子どもの切り替えがスムーズになった。
- ・同じ悩みを持っていることを知り、勇気をもらった。これからも二人三脚でがんばります。
- ・園の先生に見学してもらって、園でもうまってお友達と遊べるようになりました。



病棟での療育（発達支援）活動

子どもにとって『あそび』は、楽しくて夢中になってしまうものです。楽しいから集中できるし、頭をひねって工夫したり柔軟な発想が出てきたりします。ちょっとくらい失敗してしまっても平気です。楽しんでいるうちに身体を存分に動かし、自然と体力を養い、身体のバランスや機能が高まっていきます。友達とあそぶときは他にもいろいろな力が育まれます。友達との息のあわせ方や自分の意見を主張する方法を考える必要があります。自分の感情を調整し、言葉で説明することも大切です。友達との交流の中で自己を知り、協力や楽しみを共有する喜びなど社会性が身につけていきます。

このように子どもの育ちには『あそび』が必要です。あすなる学園に入院している子どもたちは、その『あそび』の経験が不足していることがあります。その特性や障がいから、友達とのコミュニケーションに苦手さを感じていたり、集団でのルールが分からなくてトラブルになったり、勝ち負けに過剰に反応してしまったりすることがあるためです。

当園の入院治療では、子どもたちが苦手とする社会性に関する課題を、子どもたちが大好きな『あそび』を通して解決していけるような活動を行っています。

集団あそびの『活動』は、年齢や発達に合わせた小さな集団で行います。鬼あそびやボールあそびなど、簡単なルールや約束があるものです。ここで重要なのは、大人も一緒になって楽しんであそぶこと。“決められたあそびに参加させられた”という経験で終わってしまわないように、子どもらしくあそび、集団や交流の楽しみを自然に感じられるように心がけます。また、大人が“ルールを守る適切なモデル”になって見せて、子どもたちに学びを促します。困

ったときやイライラしたときに、大人に援助を求めるスキルを練習する場にもなります。

徐々にルールの複雑な大集団でのあそびにも参加します。大人と一緒にダイナミックなあそびを楽しみながら、大きな集団で求められる適切な行動を学んでいきます。

そのほかにも生活場面での課題として、買い物の練習・工作・掃除や清潔などの身辺整理・挨拶や対人距離など具体的な対人スキルのトレーニングも行っています。例えば、友達との適切な距離のとり方を学ぶときは、まずは大人がロールプレイをして見せます。そのあと実際に子どもたちにも実演してもらうことで分かりやすく体得できるようにします。お箸の使い方や歩き方のコンテストなど、あそびの要素も取り入れて楽しく学べるよう工夫をしています。このような活動を通して身につけたスキルを、子どもたちが日常生活の中で実践・定着できるよう、トークンエコノミーなどの方法も活用しています。

『あそび』を通して社会的な力をつけていく中で、子どもたちは自分で“できる”体験（実行・実現・達成）や褒められる経験をしていきます。少しずつ自信や自己肯定感が高まり、日常生活でも友達とのあそびやコミュニケーションに良い変化が出てきます。

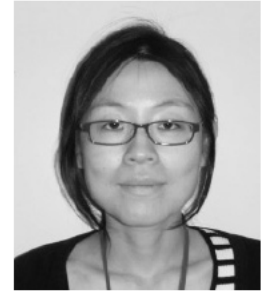
子どもたちが社会で生活していくための力を育てるために、これからも子どもの育ちや発達に目を向けながら、『あそび』を題材とした楽しくて柔軟なプログラムを実践します。



新任医師 のご紹介

柿元 真知 医師

柿元真知と申します。医師としては8年目で、三重に来てから2年余りが経ちました。三重県は自然が多い割に便利なのと、親切な人がとても多いところが気に入っています。



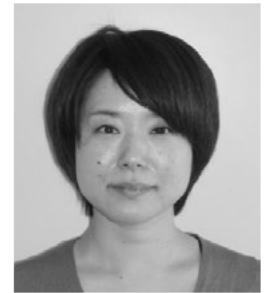
一旦大学を出た後に、精神科に興味を持って医学部に入り直しました。初期研修で小児科の楽しさを知り、小児科医として臨床を積み重ねていくうち、心理的な問題を抱えている子どもたちに多く出会い、児童精神を志すようになりました。その後、三重県で子どもと大人の精神科の勉強を始め、入院という枠組みも含めた様々な臨床の力をつけるべく、平成24年10月からあすなろ学園でお世話になっています。子どもたちが抱える目の前の問題だけではなく、10年後、20年後の姿を考えながら、治療をしていくスタッフの皆さんの姿をみて、感銘を受けるとともに、自分も見習いたいと思っています。

ちなみに、趣味は旅と路地裏探検です。特に東南アジアのごちゃごちゃした街並みをうろつくのが大好きです。研修中に、インドネシアで1か月医者(もどき)として働いたこともあります。三重でおいしい東南アジア料理の店と、いい路地裏をまだ見つけていないのが最近の悩みです。いいところがあったら皆さん是非教えてください。よろしく願いいたします。

* * *

笹岡 佳美 医師

こんにちは。平成24年10月より勤務しております、笹岡佳美と申します。徳島県の四国山地の中で大自然に囲まれて幼少期を過ごし、その後京都市で育ちました。性格はマイペースでのんびりしていると思います。瞬発力には欠けますが、持久力があることが長所だと思っています。好きなことは歌うことで、カラオケで熱唱することがストレス発散方法です。



平成19年に関西医科大学(大阪府)を卒業、同大学付属病院精神神経科に入局し、大学病院、精神科病院に勤務してきました。児童思春期から老年期まで幅広い年齢層の医療に携わってきました。学生の頃から心理学、精神医学の本を読むのが大好きで、児童精神科医という職業が存在することを知ってからは児童精神科医になることを目標にしてきました。おとなの臨床に一区切りつき、こどもの臨床に専念していきたいと考え、医局教授にあすなろ学園への異動をお願いして、あすなろ学園にやって参りました。あすなろ学園で働けることは私にとって非常に幸せなことです。日々精進し、微力ながら自分のできることを精いっぱい取り組んでいきたいと思っています。よろしく願いいたします。

外来診療のご案内

(平成24年12月1日現在)

*診察は完全予約制です。

都合により変更になる場合もあります。

●予約電話番号 **059-234-9700**

〔予約電話受付時間 9:00~12:00
(月~金) 13:00~16:30〕

曜日	月	火	水	木	金
1診	中島	西田	大槻	大橋	西田
2診		中野 (第3,4)	中島 (第1,3) 石田 (第2,4)		大槻
4診		中島	中野	山村	中野